

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和元年 8月 5日

釧路市議会議長 松永 征明 様

会派名 日本共産党議員団

代表者名 村上 和繁



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	西村 雅人
出張先	静岡市
期間	令和元年7月26日 ~ 令和元年7月29日 (4日間)
用務	第61回 自治体学校 in 静岡
調査(研修)結果等の概要	別紙の通り
備考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

報告書 第61回自治体学校 in 静岡に参加して

日本共産党議員団 西村 雅人

自治体学校とは、1964年から毎年ほぼ毎年開催され、今回で61回目です。開催当時は、公害問題が深刻化し、それにより生存権、環境権を求める世論が形成され、地方自治への関心が高まるという背景のもと、自治体本来のあり方を考える目的で誕生したそうです。主催は、自治体問題研究所内にある実行委員会です。参加者は、議員や自治体職員が大半で、静岡県、静岡市、静岡県市長会や議長会なども後援しています。

1日目は冒頭で特別発言があり、「水道事業は公営でいいじゃないか」（浜松市の水道民営化を考える市民ネットワーク事務局長）、「県民投票が示したもの、問いかけるもの」（元・辺野古県民投票の会副代表）、「日本一小さな村から自治を発信する」（高知県大川村村長）が発言しました。特に沖縄の県民投票のお話にあった、「県民投票で民意が明白になったことで、ボールが投げられているのは、本土の人たち一人ひとりである」という言葉は胸に迫りました。

初日の中心は岡田知弘・京都橘大学教授の記念講演『憲法と自治のチカラが地域の未来を切りひらく』でした。主な内容は「アベノミクスにより地方創生が行き詰まりをみせている。道州制を導入しようとしているが、州議会議員数は府県議会議員数の3分の1程度に削減されてしまう。道州制推進基本法案は、首長、地方議員の反発で国会上程すらできないので、つなぎとして地方創生を言い始めた。安倍政権は公共サービスを産業化して民間に市場開放しようとしている。行政が保有する個人情報の利活用が推進されている。今、改めて問われるのは憲法を暮らしの中に生かすこと。」でした。

2日は15の分科会に分かれて学習が行われました。私が参加した分科会は「国民健康保険制度の都道府県化と自治体の取り組み」です。講師の中心は神奈川県自治体労働者の方で、国保制度の現況、国保の構造的な問題、財政上の構造的な問題、自治体のすべきことを分かりやすく説明していただきました。私が特に感心したのは、全国商工団体連合会からの報告で、国保制度を改善するための7つの提言でした。具体的には

- 1 国庫負担の引き上げを
- 2 自治体の法定外繰り入れの継続を
- 3 応能負担の制度に改める
- 4 強権的徴収や保険証の取り上げをやめさせる

- 5 国保料・税の減免と窓口負担の軽減を
- 6 傷病・出産手当の創設など医療制度の改善を
- 7 市町村の主体性を尊重し、安心して医療を受けられる制度に

の7つです。この立場に立たないと国保はよくなると確信しました。

また2日目の夜は、5つのナイター企画が催され、私は「地域交通のこれからを考える」に参加しました。各地の参加者から、コミュニティーバスやダイヤモンドタクシーの導入について活発な発言がありました。釧路市は高齢者の公共交通の充実という面では、大変遅れているので、参考になりました。

3日目の中心は西原茂樹・元牧之原市長による特別講演『対話による協働のまちづくりを語る！』でした。主な内容は「牧之原市が自治基本条例を制定するまでの経過、市民が政策決定に参加するサロンの実現、その際自分ばかり話さないなどのルール作り、浜岡原発の永久停止決議、対話による協働のまちづくりをする」というものでした。牧之原市では、行政職員、警察消防職員、PTA 民生委員、学識経験者、土木建設企業などが参加してサロンを開き、研修を積んだ市民ファシリテーターという進行役が中心になって、重要な事案を市民と一緒に決めるといいうやり方をとっているそうです。西原氏は又「住民の会合でも市長が冒頭のあいさつだけで帰ってしまわず住民が話しているのをちゃんと聞いているのが大事。主役は市民だ」と強調しました。正に地方自治のあるべき姿を見た思いがしました。

最後に実行委員長の松繁美和さん（自治労連副委員長）の閉校のあいさつで締めくくられました。

3日間、とても勉強になった学校でした。「みんなが先生、みんなが生徒」というモットーで、全国各地の方と学びあい、交流を深めることができました。最後にこのような学校は、是非多くの首長、自治体幹部の方も参加されるよう願っています。

憲法と自治のチカラが地域の未来を切りひらく

第61回

みんなが先生 みんなが生徒

自治体学校 in 静岡

2019年7月27日(土)～29日(月)

会場 静岡市民文化会館／グランシップ・パルシェ／
清水文化会館マリナート



駿河湾からの富士山（提供：静岡県観光協会）

主催 第61回自治体学校実行委員会

第61回自治体学校 in 静岡 日程

大島 沼工市立病院
如野 若沼工

7月27日(全体会) 静岡市民文化会館・大ホール

12:00 開場

12:30 歓迎行事

13:00 開校あいさつ 学校長・川瀬憲子

特別発言①池谷たか子 「水道事業は公営でいいじゃないか」

②安里長従 「県民投票が示したものの、問いかけるもの」

③和田知士 「日本一小さな村から自治を発信する」

(休憩)

記念講演 岡田知弘 「憲法と自治のチカラが地域の未来を切りひらく」

次期開催地挨拶

17:00 閉会

17:30 地酒交流会 (静岡市民文化会館 3階大会議室 終了 19:30)

7月28日(分科会・講座)

9:00 開場 (グランシップ・パルシェ)

9:30~16:00 分科会・講座

9:00~17:00 現地分科会

16:30~18:00 ナイター企画 (グランシップ)

7月29日(全体会) 静岡市清水文化会館マリナート・大ホール

9:00 開場

9:30 特別講演 西原茂樹 「対話による協働のまちづくりを語る！」

11:00 閉講式 自治体学校参加者感想

閉校あいさつ 実行委員長・松繁美和

11:45 閉会